

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 30 年 8 月

○ 概要

- (1) 平成 30 年 8 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,052 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）▲3.2%）で、処方箋 1 枚当たり調剤医療費は 9,167 円（伸び率▲3.5%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,530 億円（伸び率+0.7%）、薬剤料が 4,511 億円（伸び率▲4.5%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 827 億円（伸び率+3.5%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5,563 円（伸び率▲5.6%）を、処方箋 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.79 種類（伸び率+0.0%）、25.4 日（伸び率+2.4%）、79 円（伸び率▲7.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 3,672 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）▲203 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 694 億円（伸び幅▲141 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 42 腫瘍用薬の+21 億円（総額 300 億円）であった。（→P.10~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	3,672 億円 (▲203 億円)	21 循環器官用薬 (694 億円)	11 中枢神経系用薬 (679 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (585 億円)
0 歳以上 5 歳未満	22.4 億円 (▲4.6 億円)	44 アレルギー用薬 (9.2 億円)	61 抗生物質製剤 (4.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.4 億円)
5 歳以上 15 歳未満	67.9 億円 (▲1.8 億円)	44 アレルギー用薬 (22.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (20.9 億円)	61 抗生物質製剤 (5.9 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,263 億円 (▲61 億円)	11 中枢神経系用薬 (291 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (217 億円)	21 循環器官用薬 (205 億円)
65 歳以上 75 歳未満	898 億円 (▲71 億円)	21 循環器官用薬 (201 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (173 億円)	11 中枢神経系用薬 (114 億円)
75 歳以上	1,421 億円 (▲65 億円)	21 循環器官用薬 (285 億円)	11 中枢神経系用薬 (252 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (190 億円)

- (4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,167 円（伸び率▲3.5%）で、最も高かったのは京都府（10,833 円（伸び率▲4.0%））、最も低かったのは佐賀県（7,789 円（伸び率▲4.4%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは愛媛県（伸び率▲0.5%）、最も低かったのは奈良県（伸び率▲5.7%）であった。（→P.31~32）

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	75.0%	+5.9%
薬剤料ベース	18.3%	+1.4%
後発品調剤率	71.9%	+4.0%
（参考）数量ベース（旧指標）	52.0%	+5.2%

注）【後発医薬品の数量】 / （【後発医薬品のある先発医薬品の数量】 + 【後発医薬品の数量】）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.5%	+8.4% (70 歳以上 75 歳未満)	▲2.3% (25 歳以上 30 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	20.9% (0 歳以上 5 歳未満)	9.8% (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	75.0%	78.1% (60 歳以上 65 歳未満)	65.1% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.47~53）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	734 億円 (+22 億円)	21 循環器官用薬 (242 億円)	23 消化器官用薬 (108 億円)	11 中枢神経系用薬 (83 億円)
0 歳以上 5 歳未満	5.8 億円 (+0.2 億円)	44 アレルギー用薬 (2.1 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)	61 抗生物質製剤 (1.1 億円)
5 歳以上 15 歳未満	11.0 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (6.2 億円)	61 抗生物質製剤 (1.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.4 億円)
15 歳以上 65 歳未満	240 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)	23 消化器官用薬 (30 億円)
65 歳以上 75 歳未満	187 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (77 億円)	23 消化器官用薬 (26 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (20 億円)
75 歳以上	290 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (97 億円)	23 消化器官用薬 (52 億円)	11 中枢神経系用薬 (33 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.66~71）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,253 円	1,612 円（北海道）	1,063 円（福岡県）
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+3.1%	+5.6%（徳島県）	▲0.7%（福井県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	75.0%	85.0%（沖縄県）	67.4%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.3%	22.3%（鹿児島県）	15.7%（京都府）
後発医薬品調剤率	71.9%	80.8%（沖縄県）	66.7%（東京都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	52.0%	61.7%（沖縄県）	47.2%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成30年8月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。